

25

お名前	性別	満年齢	終戦時の年齢	現住所
松澤みつよ	女性	83歳	18歳	中宇利

- ① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。  
三ヶ日町平山の自宅におりました。
- ② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。  
ラジオ放送で、天皇陛下のお言葉を聞きました。
- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子  
何とも言えない思いでした。もっと早く終戦になってほしかったです。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「母を助けたい ～ 兄は沖縄で……」

私は、三ヶ日町平山で生まれました。私が6年生の2月に、父が急に亡くなりました。一家の大黒柱を失い、生活が一変しました。私は三ヶ日小学校6年を卒業してすぐに、4月から浜名郡新居町の浜名紡績に入社しました。6人兄弟で、下に妹が二人と弟がいましたので、家計を助けるために姉と私の二人で働きました。いただいたお金は、母のところへ送金していました。自分のものはがまんして、少しでも母を助けたいと思っていました。

それから戦争が始まりました。紡績工場が軍需工場になりました。昭和20年に入ると、艦砲射撃\*1 や空襲が心配され、工場が疎開されました。私はその頃、浜名郡鷲津町の山の中の軍需工場、中島飛行機会社で飛行機の部品を作っていました。軍需工場ですから、攻撃される恐れがあり、危ないと思っていました。

太平洋の方からB29が飛んでくると、空襲警報がでて、会社で用意された近くの山の防空壕に入りました。防空ずきんをかぶり、いつも貴重品をカバンの中に入れて行きました。男の人でも、まだ死にたくないと言っていました。その時は、いつ死ぬか分からない思いでした。

それから、兄が21歳で出征しました。当初は支那\*2 におりましたが、沖縄に来ました。その時は、内地にもどれてよかったなと思いましたが、沖縄戦で戦死しました。20万人近くの方が亡くなったそうです。

終戦後、私は20歳になってから結婚し、中宇利に来ました。

若い人たちが大ぜい亡くなり、このような悲しい思いは二度とくり返してはいけないと思います。今は平和で、本当にありがたいと思います。いつまでも平和であってほしいと願っています。

\*1 軍艦にそなえられた大砲で、陸上の目標を海上から攻撃する方法をいう。上陸前の支援や海岸近くでの戦闘における支援射撃に活用された。

\*2 中国のこと。差別用語ではないが、中国では好ましく思われないため、戦後は使われなくなった。

## 沖縄戦について

太平洋戦争末期に沖縄で行われたアメリカとの戦闘で、日本国内唯一の地上戦。アメリカ軍は、約1,500隻の艦船と54万8000人の兵を沖縄に送りこみ、1945（昭和20年）年4月1日には沖縄島へ上陸した。日本は沖縄守備軍12万人がこれに対抗したが、その中には現地で集めた防衛隊員や、ひめゆり部隊、鉄血勤皇隊をはじめとする学徒隊員がふくまれていた。

アメリカ軍は、島を南北に分断してまたたくまに北部を制圧したが、南部では日本軍のはげしい抵抗を受けた。両軍とも多大な死傷者を出したが、ついに6月23日、沖縄守備軍司令官が自決して戦いは終わった。

アメリカ軍の日本本土攻撃を少しでもおくらせようとしたため、沖縄県民をまきこんでの総力戦となったが、日本軍は壊滅し、約9万人以上の死者を出した。死者の中には現地で集められた3万の隊員がふくまれる。一般の県民の死傷者は約9万4000人にもものぼり、日本軍に集団自決を強要された者もいた。アメリカ軍の戦死者は約1万2000人であった。

### 沖縄戦での戦没者数

○日本側	・軍人、軍属	94,000人
	・戦闘に参加した住民	55,000人
	・一般住民	39,000人
	計	約19万人
○米軍側	・軍人	12,500人

### ひめゆり部隊

太平洋戦争末期に、師範学校女子部と第一高等女学校の生徒や職員で編成された従軍看護隊。

米軍の上陸にそなえ病院で訓練を受け、傷ついて運ばれてくる兵の看護にあたった。4月1日に米軍が上陸、敗走する日本軍にしたがって、南部の洞窟の中で兵隊の治療にあたった。

6月12日、ひめゆり部隊は米軍に包囲され、脱出することもできず、敵弾にたおれたり、追いつめられて自殺したり、ひそんでいた洞窟にガス弾攻撃を受けて亡くなるなど、ひめゆり部隊の大半が悲劇的な最期をとげた。



▲ 昭和20年4月1日 米軍が沖縄本島に上陸

「写真・資料：昭和史第7巻（研秀出版）より」